

東日本大震災現地調査報告

～地震による漁港の被害～

(独)水産総合研究センター水産工学研究所 水産土木工学部

漁港の岸壁等が変形した原因としては、津波の影響が大きいですが、地震動の影響も無視できません。特に、多くの漁港において、液状化が発生したと考えられ、地盤が不均一に沈下した状況と地盤の変形解析結果とを照合すると、液状化が裏付けられます。地震動の継続時間の長かったことも液状化の要因となっています。



茨城県波崎漁港の矢板式岸壁。海側へはらみ出し、背後のコンクリート板が沈下しました。



宮城県女川漁港の矢板式岸壁。海側へ傾斜し、背後に大きな沈下が生じました。

地震に伴い、東日本の広い範囲で地盤沈下が発生しました。漁港では、これまで海水につからなかった所にも海水が押し寄せ、漁船を係留できなくなったり、魚市場でトラックやフォークリフトが通行できなくなったりという支障が生じています。その対策として、一部の施設に対して応急の嵩上げ工事が行われました。



宮城県女川漁港。沈下して水没した岸壁(上)と、応急に嵩上げされた岸壁(下)。(2011年6月)



宮城県女川漁港。応急嵩上げされた岸壁に定置網漁船が接岸し、魚を陸揚げしています。(2011年10月)。